

ロシア 強まる軍事統制

聖職者「非戦」訴え → 罰金
 「白紙」掲げてデモ → 拘束
 独立系新聞 → 販売困難に



ロシア・モスクワで13日、ウクライナ侵攻への抗議集会に参加し拘束される女性＝タス・共同

ウクライナ侵攻

ウクライナへの軍事侵攻に踏み切ったロシア政府が、情報統制や言論弾圧を強めている。「戦争」や「侵攻」への表現を禁じるだけでなく、「ウクライナの平和」を訴える聖職者に罰金を科すなど締めつけを徹底。表現の自由が広範囲に侵される中、侵攻反対を訴えた政府系テレビの番組編集者マリーナ・オフシャンニコワさん(前後して、メディア界を去るキャスター)が続出している。=◎面参考

テレビの「顔」次々離職

「同じキリスト教徒のロシア人とウクライナ人が殺し合っている訳じゃない」ロシア西部「ブトロフ州」の教会の司祭(写真)は、十四日の侵攻開始以降、ネット上の流血の事態を憂え、英BBC放送やロシア独立系メディアによる「この書の教え」が、繰り返され

「パリ＝谷悠口」ウクライナへの軍事侵攻に対して番組放送中に抗議したロシアの政府系テレビ「第一チャンネル」の編集担当者マリーナ・オフシャンニコワさんは、十六日、欧米メディアのインタビューに応じた。「ロシア国民に『田を開けてほし』」と直接伝えたかった「なり」と、腹氣ある行動の経緯を語った。

オフシャンニコワさんは米CNNテレビに「自分の信念と番組で放送される内容の乖離が大きくなり、この戦争が、これ以上沈黙してはいけられない分歧点にならなかった」発言。自身の母親も報道で「我慢」されたいなど、政府系テレビの職員として「アーチン政権のプロパガンダ(政治宣伝)に協力して来た僕

に基づき、非戦を訴えた。直後に警察に呼び出され、「軍の派遣に異議を唱えた」との理由で、三万五千卢布(約二万五千円)の罰金支払いを命じられた。ロシアでは、十四日、單に反対する偽情報を流布した場合、最高で懲役十五年とする法が成立。街頭で市民が「戦争 反対」などのプラカードを掲げるだけで、治安部隊に拘束されるケースが続出している。

「これに反対する市民の中には、言論封殺を揶揄する白紙を掲げる人たちも出てきたが、治安部隊は白紙を掲げる市民にも連行。人権」と、政府系や国営のメディアでは、ロシア軍の侵攻を「ウクライナ人民解放ための軍事作戦」と報じるところ抵抗のある社員もある。現地からの報道によるところ、「ウクライナの不運な人々が今、経験している」とがよく理解できる」と述べた。

「ロシア国民よ、田を開けて」



い田が背景にあつた口を明かした。ロイター通信に対しては、十代の頃に紛争下のロシア南部チエチェン共和国に住んだ記憶から「ウクライナの不幸な人々が今、経験している」とがよく理解できる」と述べた。

一児の母親でもあるオフシャンニコワさんは番組放送前に会員制交流サイト(SNS)で反戦デモ参加を呼びかけた罪で十五日に罰金刑を命じられ放されたが、番組内で抗議行動が今月成立したばかりの情報統制法違反に問われ、最長で懲役十五年の厳罰を受けた懲りも指摘されている。「行ったことが正しいとは信じているが、自分の安全について心配しても心配している」と心境を吐露した。

団体「OVDリンク」によると、侵攻開始からの拘束者は約一万五千人に達している。